**信仰の先祖とも言われるアブラハムは、**自分の信仰を試そうとされた神様の命令に従って、自分の息子イサクを神様に焼き尽くす捧げ物としなければなりませんでした。その時、アブラハムの心はどれほど沈み痛んだでしょうか。しかし、彼は神様の慈しみと愛を信じ、幼いイサクと一緒に、神様の命じられた山に向かい、その山のふもとに着くと、イサクに薪を背負わせ、自分は火と刃物を持って、その山を登ったのです。そして、山の頂に祭壇を築き、その上で彼を屠って神様にささげようとしました。その時、神様はアブラハムの信仰を見て、イサクの代わりに角を取られていた一匹の雄羊を与え、それを捧げるようにとしてくださったのです。そこで、イサクは救われ、神様の約束通りに、そのイサクから天の星のように、海辺の砂のように多くの子孫が生まれたのです。

**今日、わたしたちの主イエス・キリストは十字架上で、**ご自分の命をお捧げになりました。それは、罪と死の暗闇の中でさ迷っているわたしたち人間を救うためのことで、御父である神様はその贖いのためのいけにえとして、ご自分の独り子を自ら捧げ物とされたのです。その御父のみ胸に従ってイエス様は十字架を背負い、ゴルゴタの丘まで歩いて行かれました。そして、十字架に釘づけられて、最後に「成し遂げられた。」と言い、息を引き取られたのです。その死に至るまで、イエス様はご自分の弟子たちにも、ご自分に仕えるべき大祭司にも、ご自分の民であるユダヤ人たちにも裏切られました。重い十字架、群衆のののしりと叫び声、兵士たちの鞭うち。イエス様の十字架の道は、どれほど悲しくて寂しい道だったでしょうか。しかし、イエス様は最後の最後まで、その道を歩きぬき、御父の救いの計画を全うされました。

**アブラハムが自分の息子イサクに薪を背負わせたように、**神様はイエス様に十字架を背負わせられました。アブラハムがイサクを屠るための祭壇を築いたように、神様はイエス様を屠るための十字架の祭壇を立てられました。でも、アブラハムにはイサクの代わりに雄羊を与えてくださった神様でしたが、イエス様の代わりには、何も備えてくださいませんでした。イエス様こそが、罪人を救うための唯一のいけにえだったからです。

**十字架の上でイエス様は、**「エリ、エリ、レナ、サバクタニ。」「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか」と叫ばれました。この「見捨てる」という言葉は、「見ていながらも、そのままにしておく。」という意味でしょう。神様はよこしまなこの世の中で、互いに傷つけたり、傷ついたりして苦しんでいるわたしたちを「見て捨てる」ようにはなさいません。わたしたちのために、唯一のいけにえとしてご自分の独り子をささげられた神様は、いつもわたしたちを憐れんでくださいます。そのみ心に、わたしたちはどのように答えるべきでしょうか。